



OpusCapita

会社名

OpusCapita Solutions Oy
(欧米各地に 8 拠点を構える)

アプリケーション

OpusCapita

使用したツール



Delphi



InterBase

IntraWeb

OPUSCAPITA

OpusCapita Solutions Oy（フィンランド）は、S2P（調達から支払までのプロセス）、出納管理および製品情報管理のためのデジタルソリューションおよびトランザクション処理の大手プロバイダーの一つに成長した。

欧米各地の 8 拠点から 3,000 以上の組織にサービスを展開。OpusCapita 提供のホスティッドソフトウェアは、売掛金・買掛金勘定での請求支払業務の完全自動化を実現するとともに、多数の取引先や地域別規制への対応に伴う複雑性の解消に寄与している。

課題

OpusCapita は、サプライチェーンマネジメントの簡素化を必要とする多くの大規模政府機関や多国籍企業をサポートしている。国内外の複数の取引先を網羅して請求書・調達手続を管理することは並大抵ではない。こうした現実と直面したとき、大規模な組織が採る典型的アプローチとは、サプライヤーや顧客の数、注文処理の頻度を限定することだ。確かにその結果、アカウント管理業務は簡素化できるかもしれないが、選択肢と柔軟性の提供が犠牲になりかねない。この課題に対する答えとして、OpusCapita は、自動化とオープンコネクティビティにより、サプライヤーや地域の数に関係なく最も複雑なサプライチェーンであっても、シンプルでスケーラブルな方法で対応できるサポート能力を構築する。

OpusCapita にとって、各サービスデスクから集まってくる電子請求書のフォーマッティング、ルーティング、トラッキング、ハンドリングまで一連の手続を処理する上で、そのソフトウェアの動作速度とパフォーマンスが重要な鍵となる。同社では、毎月 500 万件のトランザクションを処理しモニターしているが、ピークフロー時には一日あたり約 50 万件の新規請求書を扱い、これらの請求書情報は SOAP、HTTPS、RFC、PEPPOL、X400(S)FTP、E メール、直接接続、さらには紙媒体等、様々なデータ形式や通信プロトコルで収集される。

ソリューション

OpusCapita の Mikael Nilsson 氏 (Lead Developer) は、エンバカデロから提供される Delphi と InterBase が、同社の成功にとっていかに必須不可欠な役割を担っているかを説明する。「私たちはこれまで社内ソフトウェアの開発、統合強化による拡張を進めてきましたが、すべて共通の Delphi コードベースで作成しています。我々の要件の増大に伴い、Delphi は常にソリューションを与えてくれ、イノベーションを可能にしてくれます。」



「つまり、動作が速く、役に立つ、の一言に尽きます！」

Mikael Nilsson 氏 (Delphi、InterBase 両方に言及して)



OpusCapita では、Delphi、InterBase とともに最新バージョンを使用している。顧客向け Web インターフェイスを既存の社内ツールに追加する際に、この共通コードが大きな利点となったと Nilsson 氏は説明する。「デスクトップと当社 Web ポータルとの間でコードを共有できることは、開発時間に加え、さらに重要な点として運用維持費を最小限に抑える上でも役立っています。」

アプリの動作速度とパフォーマンスの点で、Nilsson 氏は、InterBase を高く評価する。「InterBase は、まさに私たちの要件に応えるべく歩調をあわせて、強化されています。InterBase のストアードプロシージャとトリガーを用いれば、驚異的な速さで動作し、当社システムに到着したデータの複雑な処理を速やかに実行できます。」

“

「InterBase のストアードプロシージャとトリガーを用いれば、驚異的な速さで動作し、当社システムに到着したデータの複雑な処理を速やかに実行できます。」

Mikael Nilsson 氏（OpusCapita 主任開発者）

”

結果

Delphi が提供する開発スピードと広範なコンポーネントを活かし、OpusCapita は、カスタムソリューションの開発、製品・顧客満足度評価の両面で同時に首位の座を獲得している。

軽量のフットプリントを特徴とする InterBase を用いることで、競合他社よりも低スペックのハードウェアで優れた動作速度とパフォーマンスを実現している。その結果、サーバーハードウェアと総所有コスト（TCO：Total Cost of Ownership）の両方でコスト削減が可能になっているのだ。

なぜ Delphi か？

Delphi は、ビジュアルフォームデザイナーとコンポーネントを使い、マウス操作によって開発者自身がユーザー視点での編集が可能となる洗練されたコンセプトを提供する。高速なコンパイラと構成された IDE が、余すところなくその要件をカバーする。

さらに、Nilsson 氏は、並列プログラミングライブラリや FireDAC をはじめ、近年の Delphi 製品の技術革新に感銘を受けている。

「dbExpress から FireDAC への移行は、私たちの社内デスクトップアプリケーションのパフォーマンスをさらに向上させるとともに、データ管理性能に新しい可能性を切り拓きました。私たちは、スピードとリソースの改善を目の当たりにし、切り替えが容易に実現できたことを実感しています。」

ソフトウェア製品全体にわたり共通のコードベースを利用する結果、開発チームの規模を小さくコンパクトに維持しながら、驚異的な速さでイノベーションを実現できる。Delphi と InterBase という組み合わせは、リソースを保守よりも研究開発に注力して、コードの総所有コストの低減、カスタマーエクスペリエンスの向上を図るという方向性に寄与している。

<https://www.opuscapita.com/>

高解像度モニター対応、スタイル/テーマといった最新テクノロジーに対応した機能は、レスポンスでスタイリッシュなアプリケーションを実現する。

エンバカデロでは、Delphi のアップデートのたびに、数多くの改善を加えているため、最新バージョンをキャッチアップしていくことは、有意義と言える。